

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 花咲き村

代表者・役職名 氏名 代表 園田安男

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

森林コーディネータの養成育成事業～25年後の西多摩林業を見据えて～

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

70年代前半、障がい者をサポートするボランティアグループとして活動を開始。その過程で、地域的な活動の必要性を痛感し、地域の様々な問題、放置林や耕作放棄地などの課題と取り組むNPOとなった。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

西多摩の森林の危機はより深まっている。25年後に誰が森林を守るのか、という課題。小規模所有者が森林を放棄し、放置林への取り組みから始まった活動。今、所有面積を問わず、跡継ぎがいなくなり、先の見通しがつかない。また、働き手も育っていない。この事業は小規模所有者への森林活用アドバイスや森林関係者をつなぐことができ、森づくり全般を理解している森林コーディネーターの育成である。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

花咲き村は25年前から森林ボランティア活動に取り組み、また、森林の持つ社会的意義を伝える様々な体験活動を実施してきた。森林の社会的意義が理解されることによって、森林ボランティア活動の参加者も増え、広く理解されるようになった。しかし、東京の森林整備が「公共事業としての整備」になると、「事業ありき」という兆候も見られる。必要なことは、幅広い森づくりの知識と所有者や働き手だけでなく、関係者をつなぐことのできる森林コーディネーターの育成、つまり森の人材育成が未来の豊かな森林を作ることに繋がるという目的からの研修事業である。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

この取り組みによって、これまでは個々人の経験を主にした体験活動指導などが、対象(中学生、高校生、社会貢献活動など)の違いによって、指導の統一と指導の質を高めることになった。特に作業の目的を鮮明にした指導に徹することができた。これは毎年行っている学校の授業での指導など生徒の感想文が具体的に、評価も確実に上がった。また、指導員の自信にもつながり、外部的広がりを求める積極性としても現れてきたことは成果と言える。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

当初の目論見は、「森林コーディネータの養成」が主目的であった。しかし、研修、実習を行ってみると、単純に様々な要素をつなぎ合わせ、新しい企画、事業を生み出すには到らないというであった。背景にあるのは、「森林に関する知識や作業技術」の理解だけでは前に進まないということである。現在の社会的課題、特に高校生、大学生などがおかれている格差社会という現実のことなどを把握しておかねばコーディネータはできないという事実である。まずは、これまでに関係しているグループや学校や企業単位での森林活動をきちんとマネジメントする能力を身につけることと多様な社会的課題を理解することから始めよう、ということであった。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料(あり)・特になし

【体験授業指導写真】

◆大久野中学校 林業体験で植樹（2016年5月）



植樹作業が終わって集合写真
（ひとり2本の植樹）

◆都立多摩高の里山活動（2016年10月）



最初にフィールドの解説



ヒノキ間伐作業



灌木除伐（ヒサカキ刈り）